

事例 2 「あいうえお表」でおはなし Bちゃん

対象児 B児（小学部4年生 女子）

当初の様子

音声言語はないが、50音ひらがなボードで、単語1語、または2～3語文（助詞なし、主に要求する言葉 ex いきたい）を指で押して意思を伝えることができるようになっていた。（平成14年度 1学期 教室にて）

言語理解能力と意思表出意欲は強いが、音声言語の表出はない。

笑い声や泣き声など、感情の高まりによる発声はみられる。

保護者の希望

- ・鉛筆をしっかりと持って字が書けるようになる
- ・要求を指差しから、書いて教えられるようになるとうい
- ・わかる言葉、2語文、3語文、をもっと増やす
- ・いろいろとこだわりが多いが、少しずつ良い方に変えていけるとよい

長期目標

- ・音声言語を1つでも身につける（ex ママ）
- ・よりスムーズなコミュニケーション行動ができる

短期目標

- ・コミュニケーションボード（ひらがな50音表など）を使って、意思を伝達する
- ・大人との意思の疎通をスムーズにする

手立て

- ・「アンパンマンあいうえおボード」を教室に置く
- ・「携帯用あいうえお表（裏面に数個の単語）」を常時身につける
- ・ボードで押した言葉を教師が発声し、音声を聞けるようにする
- ・「トーキングエイド」を教室に置く
- ・教師も「あいうえお表」を使用して話す



写真① 携帯あいうえお表

持っていて喜んで使用できるように、台紙をカラーにしたり、人気キャラクターをつけたりした。また、裏面には、便利に使えるような言葉を列記した。



写真② トーキングエイドを押す様子

一音一音、押した後、続けて音声マークを押し、機械が単語を読む声を聞いて楽しむBちゃん。

<p>1 学 期</p>	<p>◆「アンパンマンあいうえおボード」を教室に置く</p> <p>○「おんか (が) くしつ」「いぬのおまわりさん」など、自分の興味のあることから、要求し始めた。走って教室を出ていった数秒後、わざわざ自分で戻ってきて「おんがくしつ」と教師に伝え「うん。わかったよ。音楽室行ってくるんだね。いってらっしゃい」と答えるにつこり笑って出ていったこともあった。</p> <p>*会話を楽しんでいるようだった。</p> <p>○「おんか (が) くしついきたい」の2語文もでてくる。</p> <p>○登校直後「おんか (が) くしついきたい」「あとて (で)」と自分一人で押していることがあった。</p> <p>*一人で会話しているのかとも思ったが、自分の気持ちを抑制しているのかもしれない。「いきたいけど後でだね」と言っているような気もする。こんな会話をする子どももいると思う。</p> <p>○「Hせんせい (養護教諭)」など教師の名前を指さし喜ばせる。「はそこ (ばんそうこう)」と、貼って欲しいと伝えるなど、適宜、要求を表す場面がみられた。</p> <p>○「クイズ」のボタンを押し、自習?を楽しんでいた。「い・ぬ」などの機械音声を聞き、自分で「い・ぬ」と押すと、「ピンポン、正解だよ!」と誉められる。20分でも30分でも時間があれば集中して取り組んでいた。</p> <p>◆携帯用あいうえお表 (裏面に数個の単語) を常時身につける</p> <p>○いつでも、どこでも意思が表せるようにしたところ、しっかり教師の目を見て、指さしすることが増えた。給食中も、「あかいにんし (じ) ンさん」「ひ (び) まん」など、食べる物を教師に言ってもらったり、自分で押したりしていた。裏面の「だめ」という単語を指さして教師に抑制したことはあったが、その他の単語は、ほとんど使用しなかった。指さしして、その単語を読んでもらうと喜んでいことはあった。</p> <p>*まだ、使用方法、目的がわからないようだった。</p>
<p>夏 休 み</p>	<p>◆家庭で、玩具パソコンを置く (以前より継続)</p> <p>◆父の手製携帯用あいうえお表を身につける</p> <p>○「うみいこう」と毎日のように、父を誘い、自分の要求を伝え、成功する。同時に水着とタオルを父のところへ持ってきて強い意思を示すこともあった。(本児は、海の近くに住んでいる。)</p> <p>○「～ほしい」「～とって」「～いきたい」「～たへ (べ) よう」など要求を2語文で表すことが多くなった。</p>

2
学
期

◆「アンパンマンあいうえおボード」を教室に置く

○「おんか（が）くしついきたい」のほかに「おんか（が）くしついこう」もでてきた。

*意思の強さの違いと考えられる。

◆改訂版携帯用あいうえお表（裏面に数個の単語）を身につける

◆押した言葉を教師が発声する

○1学期より、使用する回数が増えた。2学期1回目の国語算数の時間に「はなとてんわとて（バナナと電話の模型取って）」と要求を伝えた。

*助詞が入っていたのと「取って」は初めてなので驚いた

○「くさい」など新出単語がみられる。

○「かがくのとも」の絵本の題名を押す回数が増えた。

○聞いた音声を真似て、押そうとしていることがある。

○教育実習生の先生には、使用する頻度が多いような気がした。

○家庭で眠れないときに「ねるなし」「おこるなし」と泣きながら訴えたこともあったそうだ。

○大好きな警備員さんの名前を押して本人に見せて喜ぶ。

○警備員詰所近くにある注意書「必要のため」の「ため」を頻繁に指さし笑っている。

*どうも、警備員さんの口癖「だめ」が書いてあると、言っているようだ。

○一人で保健室に行き、養護教諭に「はさみ」と示したり、指でさかむけを示したりして、さかむけを切ってほしいという要求を伝えた。

○何かしてもらった後に「ありか（が）とう」と表す。

○給食中こぼしたり、何かを失敗したりしたときに「こ（ご）めんなさい」と伝えた。

○他校児童との交流活動の時に、表を指さし自分から話かけていた。

家庭での変化

○夜に目を覚まして、「のと（ど）かわいた」と母に訴えるなど、以前は手を引っ張って行って冷蔵庫から飲むものを出していた手段が簡略化され、起きてすぐのパニックが減った。

○休日にいつも行っていたラーメン店のことを母に「いきたい」と伝えた後「今日はおうちで食べる」と説明されると納得し我慢することができるようになった。

○妹が怒られていても「こ（ご）めんなさい」と押し、「B（本人の名前）じゃないない」と言われると「Bないない」と押し納得している。

◆机上用あいうえお表を机に貼る

○給食中に、教師と食べ物について話をしたい要求が高いので、カードを取り出さなくてもいいようにした。食べ物の名前を中心に「おかわり」「ふりかけ」など要求を伝えることもある。

*本児宅は飲食店を営んでいるため熟知した得意分野なのかもしれない。
○牛乳を飲んでいない特定の友だちを見て「M(友だち名)あけて(ふたを開けて)」と要求を表す。

*特定の友だちの様子が気になっている。
○教師とのやりとりを楽しみ、給食中に笑顔が多く見られるようになった。
○「はいはい」という教師の口癖を「あいあい」と押してみせる。
○食事直前の献立発表の時、教師の「これなあに？」の問いに「しろいこ(ご)はん」や「おにく」「おみそしる」など答える。または、聞く前に押して見せる。

*何でも会話に参加したがるので、本来おしゃべりな性格なのかもしれない。

◆11月から「トーキングエイド」を教室に置く(アンパンマンボード撤去)

本児のトーキングエイド使用歴

5歳時一言語療法士に、声が出るまでに時間がかかるという理由から、まず意思を伝える手段に文字から入ることを決め、使用し始める。固有名詞未獲得だったため絵カードと平仮名の一致からスタートした。

入学前練習を続けていたら、ある日公園に行ったとき、看板を指さしたので「『ま』どれ？」など質問すると正しい文字を指さし、音声と平仮名の一致ができることがわかった。

8歳時一破損のため使用できなくなった。(以降、玩具のパソコン等で代替)

○以前、家庭で使用していたので、見つけると同時に、すぐに使いこなす。音声が出るので嬉しそうである。教師が手を離せないとき、または、近くに行けないときは、自分から、これを使う。強く言いたいときも同様である。

○言いたいことを音声に表すこと自体に満足しているかのように、笑顔で好きな本や曲、食べ物を繰り返し押している。

○時間なので止めるよう声を掛けると「おしまい」と自分で押して納得していることもあった。

○ベトナムの教師が「お名前なあに」と聞くとしばし考え「すふん」と、目の前にあった「スプーン」と答える。たずねられたのが自分の名前だと気がつくと、「B(本児の名前)」。続いて、クラスメートの名前を順に押して知らせた。

○毎朝押している「みんかんでらんそ」「ももてらんそ」は、それぞれ「みかんデザート」「もも…」を意味していると、教師が気づき、言葉で伝えると喜んでた。

*昨年度後半に毎朝、給食の献立表を見ることを楽しみにしていた頃があった。おそらく、そのころから、「今日のデザート何かな」と思い巡らせているのではないか。(デザートのある日は、食が進む。)

○朝一番に「N(有名キャラクター名)」と押す。

*家庭で、妹がしているゲームに出てくるお気に入りのキャラクター名で、本児はこれを見て楽しんでいるようだ。「先生、きのうゲームでN出てきたよ」と言う感じで楽しかったことを話しているのかもしれない。

コミュニケーションの広がりとうれしい変化

・交友面

玩具の取り合いに「かして」と自分から訴えるようになり、以前は取られっぱなしだったが、少し抵抗し玩具を離さないようになってきた。取られてしまった時には教師に助けを求めるようになった。また、本児と担任が会話中、他児が「ブランコ押してください」と来たので「Kちゃんが『ブランコ押して』だって」と言うと、本児はブランコに近づき押そうとした場面もあった。友だちを見て「(友だち名) いけません」「はしもて(箸持って)」など、行動に関心を寄せた言葉も表すようになってきている。

・発声面

給食のお盆を取りに行く名前呼びのとき自分の名前を呼ばれるのを待ち、呼ばれると勢いよく立ち上がる。しっかり教師を見て駆け寄り、手と手をタッチする返事に気合いがこもることが多くなり、同時に発声しようと「h・・a」とかすれ声を出す様子もみられた。

国語算数の時間にも、笑顔で口真似をしようとするが多くなり、以前より力強く口形を真似ている。

50音表がないとき、すぐに表を探し始め、それでも無いときには、何とか口を動かしたり指さしをしたり、手がかりを探したりして、伝えようとする。2学期後半から「kha…」や「uwh…」という弱い発声が頻繁に聞かれるようになってきた。

ま と め

家庭では、本児担当の言語療法士に勧められて以来、取り組んでいたトーキングエイドが破損した後、玩具のパソコンなどを使用して単語で意思を伝えていることを母親から聞いたので、学校でも、50音表で意思表示することに取り組むことにした。

本児は、大人の会話を理解できることが多いので、内言語は確実に日々育っているように思われる。一方で、自分の思いを「50音表」で言葉に表す手段を身につけ、言いたいことを表す喜び、伝える楽しみなどを体験し、自分から発信するコミュニケーションの心地よさを味わってきている。こちらは、まだまだスタート段階である。

教師は、本児から受信する機会が増えたことで、理解が深まり、やりとりも変容してきている。このことも本児に影響を与えていると考えられる。改めて、教師側が子どもの小さな発信も見逃さずに受信して、コミュニケーションの原則である「五分五分の関係」を築くことの大切さを感じた。

保護者は、「幼い頃の思い通りにならない不快感と、現在の不快感とは異質なのではないか。現在は、『どう言ったらいいのかなあ』『なんでわかってくれないのかなあ』など、一つ段階を経た不快感になったのではないか。成長する段階でそれぞれ悩みが出てくるのは当然で、一步一步乗り越えていけばいいのではないか」と話されていた。

自分の思いを伝えることで、言語面はもちろん集中力、思考力、意欲なども育ってきているのではないだろうか。情緒も安定してきている。双方向のコミュニケーションは、幅広い成長の可能性を秘めているようだ。これからも、B児自身の自尊心を大切にしながら、豊かな生活が送れるよう取り組んでいきたい。

(中 田 圭 子)